移住者さんと語ろう

2月3日、同校で1・2学年を対象に「移住者さんと語ろう」が行われました。ゲストは、長崎県出身でファッションデザイナーの松石優美子さんと、北海道出身で十和田湖・奥入瀬渓流などでネイチャーガイドをしている村上周平さんです。

松石さんはまず、自分の仕事について説明。ファッションショーの写真を見せると、生徒は「かっこいい」と声を上げ、目を輝かせました。

東日本大震災をきっかけに今後の生き方を考え、ご主人の実家（六戸町）に近い本市に移住することを決めた松石さん。「仕事は、インターネットを活用して、世界と通じることができるので特に不自由は感じていない」と話します。

自分の半生や思いを熱く語ってくれたゲストの二人

村上さん

松石さん

そして、本市の魅力について「奥入瀬渓流・十和田湖の自然の圧倒的な迫力にはいつも驚き感動します。特に豊かな水。何万年もかけてつくられた水が、いかに皆さんの体と心をつくっているか、この地域の誇るべき財産です」と力強く話しました。

村上さんの移住のきっかけは、アウトドアツアー会社からのオファー。実際に、十和田湖、奥入瀬渓流、蔦の森などを見て自然の深さに一目ぼれし、移住を決意したといいます。

村上さんが見せた、美しく力強い自然の写真に、生徒たちは息をのみました。村上さんは話を続けます。「身近で誰もが気軽に楽しむことのできる自然は貴重です。この自然を上手に残してきた先人を誇りに思って、大事にしていきましょう」と。

興味津々の様子で聞き入る生徒

生徒たちは二人にたくさんの質問をしました。「大事にしていることは？」と聞かれ、松石さんは「私が今、大事に思っているのは〝健康〟です。そう思った時に、おいしい水や野菜のある十和田での生活が当てはまりました」。村上さんは「私は〝思い〟を大事にしています。常に高い目標を、自分の中にしっかり持っていることが、自分の活力になると思います」と話しました。

生徒たちは、当たり前に思っていたことが本市の魅力であったことに気付きました。そして、場所や環境のせいで何もできないと決め付けず、自分の好きなこと、やりたいことを見つけ、志を高く持つ大切さを学びました。

小泉優斗さん（2年）

「十和田市には何もないと思っていたけど、他の場所にはない、ここにしかないものがあると思ったので、将来は十和田市に関する仕事をしたいです」

長瀬那菜さん（2年）

「私は、十和田市でできる仕事は限られていると思っていたけど、今日話を聞いてもっと将来の夢の視野を広くしたいと思いました」

14歳、夢に向かって

2月10日、市役所で同校の「立志式 ～つなげよう ふるさとの未来へ～」が行われ、2学年生徒22人が小山田市長らに、将来の夢と市への提言を発表しました。

これまで生徒たちは、「ふるさと学習」を通して本市の現状を探り、さまざまな人との出会いから、自分の生き方を見つめてきました。

最初は緊張した面持ちの生徒でしたが、自分の番になると、将来を見据えるような真っすぐな眼差しで、夢とふるさとへの熱い思いを堂々と発表していきました。

立志式 ～つなげよう ふるさとの未来へ～ より

石倉元希さん
優しく強い保育士になりたい

子ども十和田ＰＲ隊を結成して地元をＰＲ

保育園や幼稚園にポスターを貼って、ボランティアとして5、6歳の子どもたちを集め、「子ども十和田ＰＲ隊」を結成します。ＰＲする人は大人が多いので、子どもがＰＲを行えば、面白さ、かわいらしさ、珍しさで観光客が増えると思います。また、子どもたちも早くから市の良いところを知ることができます。子どものＰＲで市が有名になってほしいです。

小笠原聖太さん
不動産関係の仕事に就き、まちの空き家をなくしたい

ペットと共に田舎暮らしでＰＲ

都会のペット好きな60歳以上の人に、インターネットで「十和田でペットと共に暮らしませんか」と宣伝します。ペットと一緒に移住してきた人には、高級ペットフード3カ月分をあげたり、ペットと飼い主の交流会を開いたりします。十和田市は、畑や田んぼに囲まれ、自然豊かなので、ペットとの暮らしに適していると思います。全国にＰＲして、人口減少に歯止めをかけ、市を盛り上げたいです。

髙渕輝空さん
外国の方と関わるような仕事がしたい

十和田の自然を欧米と十和田の架け橋に

欧米からの観光客が少ないので、欧米からの観光客に向けた市の自然を巡るツアーを企画します。ツアーは、年に4回。桜の4月、夏休みで訪れやすい7月、紅葉の10月、雪の2月です。桜、紅葉、雪は欧米では見る機会が少ないのでとても喜ばれると思います。欧米を中心とした外国の方からも認められるようなまちにしたいです。

髙渕果夢さん
みんなを笑顔にする仕事がしたい

運動をしてみんな健康でい体

市の平均寿命を伸ばすために、運動イベントをたくさん行います。若者は積極的に運動しない人が多いと思うので「恋活系スポーツ」というイベントを考えました。これは、スポーツを楽しみながらも、恋を実らせることができるというイベントです。これにより、市民の幸福度も上がり、「変わったスポーツがあるまち」と注目されると思います。市民がいつまでも健康でいられるようにしたいです。

全員の発表が終わり、小山田市長は生徒たちに「皆さんは、市の現状を学び、課題を見つけ、市が元気になるために何をすればいいのかをよく考えていますね。若い皆さんならではの貴重な意見がたくさんあり、とてもありがたいです」と感謝の言葉を述べました。そして、「人間は誰でも夢を持ちます。でも夢は、現実と向き合った時に、変化したり、消えたりすることがあります。いつまでも夢を追いかける勇気を持って、今後の学業・社会生活を送ってください」とエールを送りました。

保護者からは「大きな声ではきはきと発表していて素晴らしかったです。夢やふるさとのことをたくさん調べていて頼もしいと思いました」と感想が述べられました。

式が終わり、ほっとした表情を浮かべる生徒。夢の実現に向けて努力することを誓い、確かな一歩を踏み出しました。

小山田市長の感謝の言葉

ふるさとを愛する心

日本一事業の取り組みで一番多い取り組みが「ふるさと」に関するものです。

今号で紹介した2校も、日本一事業を活用してふるさと学習を進めています。その中で芽生えた子どもたちの「ふるさとを愛する心」。これは、何事にも変え難い宝物です。本市にとっては、未来のまちづくりを担う人材の育成はもとより、元気で希望にあふれたまちの実現につながり、子どもたちにとっても、自分自身の誇りや自信となり、生きる力につながっていきます。

「郷土愛 未来を紡ぐ 縦の糸」これは第一中学校でつくった標語です。縦の糸とは、大人が子どもたちを支える希望や環境整備。その縦糸を軸にして、子どもたち自らが一本そして一本と横の糸を積み重ねていくことで素敵な織布が紡ぎ出されていくことを表しています。

貴重な子どもたちの「ふるさとを愛する心」を育むために、私たち大人や地域がしなくてはいけないことを、もう一度考えてみませんか。

日本一事業は、生き生きとした子どもの育つ、魅力ある学校づくりを支え、私たちのまちづくりにも大きな効果をもたらしています。